

研究業績を見るとき注意 (内容は学生向けであり、あくまで私見です)

【論文数だけを見ることの注意点】

論文数が多い方が成果が多く出ていると考えられるが、論文誌により採択基準が異なり、分野によっても論文の出やすさが違うので単に数だけを見ることは適切ではない。少なくとも以下のことは注意すべきである。

- 1) 分野による論文の出やすさの違い。
- 2) 上記とも関係するが、論文1編当りの著者数が多いほど論文数は多くなりやすい。
例えば、10人で1編ずつ論文をかいてみんな共著にすれば論文は10倍になる。
- 3) 上記とも関係するが、論文ごとに、主たる研究者、研究グループがどこかも考慮する必要がある。
貢献度合いの違いを考慮する必要がある。
- 4) 論文誌ごとの論文採録の難易度。一般には、Impact Factorの高い論文誌のほうが掲載されづらい。
新規性があるだけではなくより高いインパクトを持った論文だけが採録されるため。
ただし、Impact Factorだけで評価するのは妥当ではないのも確かである。
意図的にImpact Factorが操作されている場合もないわけではない。
そのことを改善するため、論文誌の影響度の指標には他にもいくつかのものが存在する。
- 5) 論文誌の評価と論文そのものの評価の違いにも気をつける必要がある。
- 6) 総数だけを見ると年長者の方が多くなる。年度ごとの論文数とその推移を見ることも重要。

【被引用数(Citation)を見るとき注意】

他の論文から引用された回数(被引用数)は他の研究への影響度を示し、論文の価値を示す指標のひとつではあるが、少なくとも以下のことには注意が必要である。

- 1) 分野により論文の引用に対する考え方が違う。少しでも関連する論文を網羅的に引用することを求める論文誌や、本当に重要なもののみを引用する論文誌など様々である。
- 2) 論文をたくさん書いている場合、自己引用により被引用数が増えることがある。
- 3) 論文1編当りの平均被引用数もひとつの指標であるが、論文数も考慮されるべきである。
- 4) 影響の高い論文からの引用と、そうでない論文からの引用の価値は等価ではない。
- 5) 内容の間違った論文は逆の意味で注目され被引用数が増える場合がある。

【Impact Factorを見るとき注意】

Impact Factorは論文誌の影響度を測る指標であり、論文個々の質を評価するものではない。一方で、そうは言ってもImpact Factorの高い雑誌の方が一般に採録の難易度は高い。ただし、以下のことに注意する必要がある。

- 1) 分野によって論文の引用に対する考え方が異なりImpact Factorの平均値が異なる。
- 2) 著者に論文の引用を増やすように指示して、意図的にImpact Factorを高く見せようとする論文誌が存在する。
- 3) Open Access Journalの方が閲覧が容易なためImpact Factorが高くなり易い傾向にある。

【Altmetricsについて】

社会へのインパクトとしては興味深い指標ではあるが、まだ十分にデータベースが構築されていないように思われることと、最近の情報を伝える媒体の多様化により昔の論文に比べて最近の論文の方が話題になりやすい傾向は否めない。特許からの引用に着目すると産業界への影響がわかるかもしれない。

【学術賞について】

近年、表彰の機会が増えたことと、若い研究者への表彰を積極的に行う傾向があるため、若い研究者の方が表彰されやすい傾向にあるように思う。また、個々の表彰で価値の違いがある。人脈も受賞のされやすさに影響するかもしれない。個人で築いた人脈はその人の評価だが、出身研究室の人脈も影響するかもしれない。

【査読について】

論文の査読を依頼されるということはその分野での見識が分野内で認められていることを意味する。ただし、データベースが完全ではなく、全ての査読履歴が公開されていないので、あくまで参考情報である。